



カイゼン★ニュース

2019.8 編集/発行 都市戦略本部 行財政改革推進部

No. 2

「KAIZENセミナー」の講演内容を紹介します

7月31日(水)に開催しました「KAIZENセミナー」では、日本電鍍工業株式会社代表取締役の伊藤麻美様に、会社や伊藤様自身に取り組んでいる業務改善・働き方改革等について、ご講演いただきました。本ニュースでは、参加者のアンケートから、今後の業務に活かせる取組としてあげられた講演の内容についてご紹介しますので、ぜひ、参考にしてください。

講師紹介

創業者の父が亡くなった後、後任の社長が急速に会社を傾け、抵当に入っていた家を売却するとの電話で急遽アメリカから帰国。悩んだ末、「会社としては死に体だ」と言われた会社を32歳で継ぐ決心をし、代表取締役へ就任。社員は男性の年配者がほとんどを占め、協力が得られない中、強いマインドを持ち、少しずつ改善・改革を重ねることで、3年で黒字化を達成した。

コミュニケーション

- 社内の雰囲気づくり、コミュニケーションの取り方、上司と部下の垣根を取り除く取組
⇒仕事は抱えこまず、急に休んだ際も仕事が止まらないよう、日頃から情報共有を行う。上司は良い情報も悪い情報も部下と共有。社長と個人面談・社員のいい所を共有するランチ会等の取組。
- あいさつや清掃の大切さ
⇒あいさつをすることで、職場のコミュニケーションを意図的に図る。

意識の持ち方

- できない理由ばかり探さない。「できる・やれる方法を考える・見つける」という姿勢で仕事をする。
- 「どうすればいいですか」とただ尋ねるのではなく、「〇〇したいと思うのですがどうですか」と自分の考えを持った上で提案する。
- 明確な目標を持ち、目的意識・勇気を持って行動する。迷ったり、困難な局面にたった時に、目標を見つめ直し原点に立ち返りながら進む。

人材育成・継承

- 部下にチャンスにあたえ、ささやかでも成功体験をつませ、少しでもほめてあげる。そして喜びを共有し、みんなでお祝いする。
⇒実際にやらせないと人は育たない。失敗してもよい。チャレンジした姿勢を評価する。
- 自分だけにしかできない仕事は作らない。
⇒ものづくり企業では、年配者の技術や知識を継承していくことが重要。特定の人がいなくても他の人ができるように、仕事の標準化・マニュアル化に取り組む。

業務効率化

- 業務効率化のため、椅子を無くし、立った状態で仕事をできるようにした。
⇒座り続けるのは体にも悪い。立つことで、柔軟に効率よく仕事ができる。